

素愚 南部栄司

小樽運河河畔散策

小樽運河の畔を散策

(尤韻)

漕渠千里尚今流

漕渠 千里 尚今流れ、

倉稟何時変酒楼

倉稟 何れの時か 酒楼に变ず。

北地市街無煩暑

北地の市街 煩暑無く、

少間揮筆楽閑遊

少間 筆を揮つて 閑遊を楽しむ。

語訳

漕渠 貨物を舟で運ぶために掘った川。 北地 北方の地。

煩暑 うだるような暑さ。 倉稟 倉庫。 少間 少しのひま。

閑遊 ぬんびりと遊ぶ。

通釈

蒼い色に映える小樽運河の水は今も流れ続けており、

昔船着き場の倉庫として栄えた此の辺りの建物は、

今は食堂（レストラン）に変わってしまったている。

北海道の夏の町は、うだるような暑さは無く涼しく、

私は旅先の少しばかりの時間に、運河の畔りをスケッチをして楽しんだ。

平成二十四年八月十八日 12.11.16

